

学校だより



菜の花

川崎市立長沢小学校

令和6年4月30日

「心づかい」と「思いやり」

校長 中西 憲子



長沢小 HP

月に一度の火曜日の朝会は、私が子どもたちに話すことができる貴重な時間です。どんな話をしようかといつもいつも考えています。4月の朝会では、私の子どもたちへの一番の願い、「『優しい人』になってください」という話をしました。

「優しさ」といっても、人によって持っているイメージが異なるかもしれません。私の思う「優しさ」とは、「自分以外の人に思いを寄せること」、そして、「自分ができることを考えて行動する『心づかい』と『思いやり』」です。

心配なことがあるのか、朝、正門からなかなか足が進まない子に、通りかかった子が「どうしたの」「一緒に行こう」と手をつないでくれます。つないだ手からエネルギーが伝わったのでしょうか。一緒に歩き出すことができました。給食の準備を手伝いに来た6年生が、「朝探していた上着見つかったの」と1年生に声をかけます。朝から気にしてくれていたのでしょう。「あったよ」「よかったね」と温かい会話が続きました。困っている友達を助けたり、言葉をかけたりできる、「優しい」子が長沢小学校にはたくさんいます。

相手がいやがることをやらないこと、言わないことも大切な「優しさ」です。授業中に廊下で泣いている子がいたので、近くに行こうとすると同じクラスの子が私のところに来て、「さっき先生に叱られて今は廊下にいるけど、反省していると思うし、もう少ししたらきっと自分で入って来られると思う」と教えてくれました。分かっているけれどできないときは誰でもあります。そんなときは、そっとしておいて欲しいものです。「どうしたの」と聞かれたり「早く教室に入りなさい」と言われたりはしたくないときもあります。その場を離れ、しばらくして戻ると、廊下で泣いていた子は教室に入ってみんなと笑顔で学習していました。

『『こころ』はだれにも見えないけれど、『こころづかい』は見える。『思い』は見えないけれど、『思いやり』はだれにも見える。』広告や道徳の教科書にも掲載されている宮澤章二の「行為の意味」という詩の一節です。子どもたちには、自分以外の人に心を寄せ、自分ができることを考えて行動できる人になってほしいです。また、人の心づかいや思いやりの行動や言葉から見えない「心」や「思い」を感じ取ることができる人になってほしいです。

目の前の友達への「優しさ」の積み重ねは、これから子どもたちが出会うもっともっと広い世界や多様な人々、見えない相手への「優しさ」へと膨らんでいきます。私たち大人は、子どもたちの手本となるように、「心づかい」と「思いやり」にあふれた行動や言動を心掛けていきたいものです。

長沢オリンピックについて

昨年度の学校評価で、「午後も使って一日開催で」「騎馬戦やリレーを見たい」等長沢オリンピックへのご意見をいただきました。昨年度末にも回答したとおり本校では、長沢オリンピックの練習は体育のカリキュラムに位置付けて実施しています。また、限られた時間の中でどの子にもできるだけ出場の機会をつくることを大切にし、3種目ずつの出場としています。練習や準備で児童や教職員に負担のないようにすることも重要な視点です。ご期待に沿えない部分もあり申し訳ございませんが、児童会、教職員がめざす「長沢オリンピック」の趣旨をご理解いただき、なかなか目には見えない部分にも子どもたちや教職員の努力や思いがあることをくみ取っていただきたくお願いいたします。参観される皆様のご協力がなくては、教職員が子どもたちの安全のために指導に集中することができません。ご協力のほど重ねてお願い申し上げます。